



# 日本の森林や木材利用の現状はどうなっているのだろう…

## 日本の森林の現状



日本は森林資源国。植林・育林は国土を支える日本の文化だ。  
(天竜の人工林、浜松市)

## 高齢化した大きな木が、どんどん増えている!

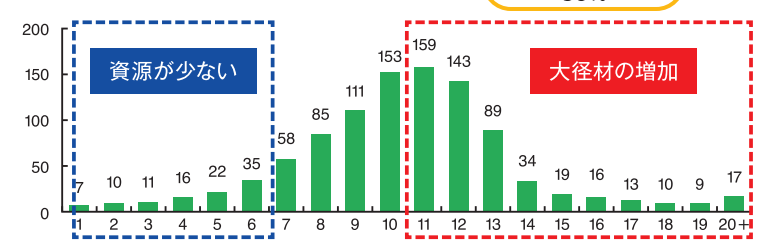
現在の日本の森は、伐って、使って、植える。「循環」が大事!

日本の森林資源は充実していますが、「少子高齢化」状態が進行しています。高齢化して、大径化した木は現在の住宅用木材を製材するには太すぎて使いづらく、用途がないため、価格が下がり、伐るに伐れない状況となっています。将来世代に資源を残すためにも、「伐って、使って、植える」という循環の考え方が必要です。

森林の若返りは、林業界だけでなく社会全体の緊急の課題となっています。私たちが開発した学校机の天板は、大きな木を製材してつくります。私たちは大径材の需要開発に取り組むとともに、地域材の価値や利用の意義を普及させ、森林循環による恩恵を継続的に享受できる仕組みを構築していきます。



■ 人工林の齢級別面積 (万 ha)



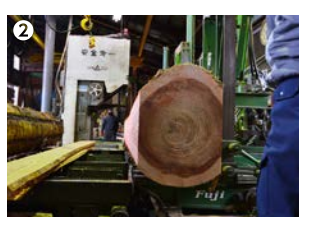
50年生を  
超える人工林  
50%

資源が少ない

大径材の増加



① 地域で大事に育てられた立派な丸太。無駄なく、価値に見合った材料として使うためにはどうすればいいのだろうか?



② 木には人間と同じように、1本1本、個性があります。その特性を見極め、製材する技術が日本の木材産業を支えてきました。

資料: 林野庁「森林資源の現況」(平成29年3月31日現在)  
注1: 齢級(人工林)は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1~5年生を「1齢級」と数える。  
注2: 森林法第5条及び第7条2に基づく森林計画の対象となる森林の面積。

## 暮らしの中の木材



## 私たちの暮らしに根付く「木の文化」

身の回りにある木材について考えてみよう!



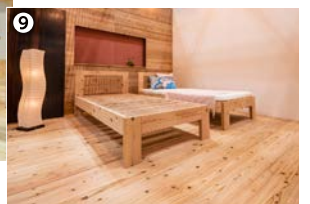
木材は、昔から日本人の暮らしと馴染み深く、建築用材、家具、箱、樽や桶、箆、船、下駄、彫刻、工芸品などあらゆるものに使われてきました。それは木材がとても優秀な材料だからです。

木(無垢材※)には、調湿性、温もり、触ったときの感触の良さ、自然素材としての安全性、良い香りなど、室内の快適性を高める優れた性質があります。

最近では、人のストレスを少なくする、疲れにくくするなど、生理的・身体的な効果があることが明らかになってきています。触れるところ、見えるところに無垢材を使うことで、気持ちのいい空間は、もっと広がります。

私たちの暮らしを豊かにする木材。まずは、触れてみて、その心地よさを実感してみてください。

※無垢材とは、伐り出した本物の木材をそのまま製材品として利用したノンケミカルな素材



⑧ 学校の中にも、木材を使った製品はたくさんあります。例えば、学校机。

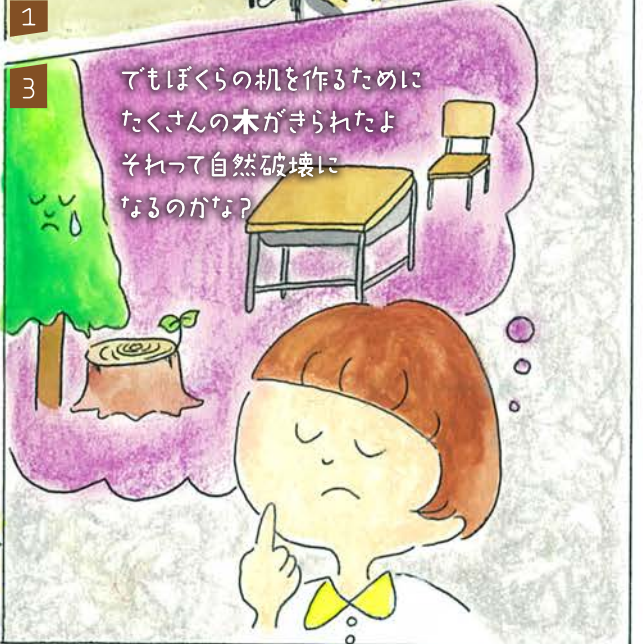
従来、表面が軟らかく使いづかったスギの無垢材が、新しい技術の開発によって製品化されています。

⑨ 木の香りに包まれた寝室空間。スギにはセドロールという成分が含まれており、誘眠効果があることが知られています。

- ③ 住宅の柱や内装材
- ④ ウッドデッキ
- ⑤ 木を使った遊具・おもちゃ

- ⑥ 木製のフェンス
- ⑦ 家具(テーブル)

森林・木材のことをもっと知ろう!



絵:Fuku Kimura

人がきちんと手入れして、きた木を生活に活かし  
また育てることで命はまわっているんだよ

